

高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 実地視察機関の概要

○指定を受けている学科等の概要

機関名	高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所			設置者名	学校法人 高岡第一学園				
課程・学科等の名称等				指定を受けている免許状の種類・指定年度		免許状取得状況・就職状況 (令和6年度)			
課程・学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	指定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
						実数	個別		
教育社会福祉専門課程	幼児教育科	昭和41年度	40人	幼二種免	昭和41年度 (令和元年度)	14人	14人	14人	3人
入学定員合計		40人	合計		14人	14人	14人	3人	
備考	平成11年4月1日 高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所に改称								

教職課程実地視察教員養成機関に対する講評

実地視察日：令和7年11月11日（火）

実地視察大学等：高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所（実地）

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等については、全般的に基準を満たしており、おおむね良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○貴校としての教員養成に対する理念・構想について、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものととなるように、今後も努めていただきたい。
○特に「3.」で指摘するように、教育実習に関し貴校の教員養成に対する理念・構想を明確化・具体化する教育課程の編成を検討いただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教育研究実施組織

○「教科及び教職に関する科目」に関し、教職課程コアカリキュラムを踏まえておおむね適切に授業計画が記載されていることが確認できた。
○一部科目について、授業形態及び単位認定に必要な授業時数が確保されているか確認できないシラバスが見受けられたため、修正を行うこと。

3. 教育実習の取組状況

○教育実習について、学生への指導体制をはじめ、適切に行われていることが確認されたが、法令に定めている要件に比して実習の期間が長くなっているため、学生に過度な負担をかけていないか注意いただきたい。
○「保育者論」や「教育の方法と技術」等が教育実習の後に開講されているため、教育実習に行くにあたって必要な知識・技能が適切に学ぶことができるよう、教育課程の見直しを検討いただきたい。
○「夏期保育体験実習」やボランティア実習、学校祭等を通じて、1年次の夏以降定期的に幼稚園や園児と関わる機会を作っていることは評価できる。今後はこれらを「学校体験活動」として教育実習と相まったものとして位置づける等、より教育効果が高まるような取り組みを期待する。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○学生の履修状況等を複数の教員間で定期的に共有し指導等を行っていることは評価できる。
○学生の就職に関し、早期から担任教員が保護者も交えた三者面談を行う等、細やか

な指導を行っていることは評価できる。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○ボランティア活動等を通じ附属園とは連携が行われていることが確認できたが、保育教諭及び幼稚園教諭の養成は地域における重要な位置づけであることから、指導大学である富山大学の指導のもと、地元の教育委員会や知事部局等との連携を深める取組を検討いただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○ICT等に関する授業科目を支援する基本的な施設は整っていることが確認できた。今後は、ICTの活用を活動実践に積極的に取り入れることができるような施設・備品等の整備に努めていただきたい。

○図書館の蔵書については発行年が古いものが多い。特に新たな知識が求められる分野に関連する図書や新聞、雑誌等の充実に努めていただきたい。

○同法人下の高等学校や附属幼稚園と連携し、施設や設備の共用化を通じて教育課程の充実に努めていることは評価できる。

7. 指導大学（富山大学）の指導状況

○指定教員養成機関制度は、当該教員の養成課程を置く大学による指導と承認のもとに運営されることが前提である。（教育職員免許法施行規則第27条第2項）、引き続き指導大学である富山大学と緊密に連携のもと、教職課程、教員組織、施設・設備等の在り方について検討し、より充実した教員養成を行うこと。

8. その他特記事項

○過去5年間で入学者が半減し入学定員を下回っていることから、令和7年度に入学定員を60人から40人へ引き下げているが、近年の志願者数の減少は非常に重要な課題である。「高校生のための幼児教育体験講座」（年3回）に多くの高校生が参加しており、保育分野の人材確保に努めている点は評価できる。引き続き、保育教諭及び幼稚園教諭や貴校の魅力の発信等を通じた学生募集に関する取り組み及び幼児教育を担う人材の量的な充実に期待したい。

○担当科目に関わる活字業績を有さない教職科目担当教員が見受けられたため、ファカルティ・ディベロップメントを通じた授業内容の省察・改善や、関係学会や研究紀要への論文投稿などにより、担当科目において含めることが必要な事項に関わる研さんを積むことを可能とする環境の整備に取り組んでいただきたい。